

エコアクション2.1 環境経営レポート

株式会社タムラカントウ



対象期間：2022年11月～2023年10月
作成日：2024年1月9日

目次

| | |
|---|----|
| 1. 組織概要..... | 3 |
| 2. エコアクション 2.1 対象範囲..... | 4 |
| 3. 環境経営方針..... | 4 |
| 4. 環境管理体制図..... | 5 |
| 5. 環境経営目標及び活動計画..... | 6 |
| 6. 2022年度環境活動実績..... | 7 |
| 7. その他の環境活動（SDGs への取組）..... | 8 |
| 8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟などの有無..... | 11 |
| 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示..... | 12 |
| 10. 次年度の環境目標及び取組計画..... | 13 |

1. 組織概要

(1)組織の概要

商号:株式会社タムラカントウ

代表者:代表取締役 田村 行雄

(2)所在地

本社・千葉営業所:千葉県千葉市美浜区新港 223 番地 2

TEL 043-246-2751(代表)

FAX 043-246-2789

E-mail kouji@tamurakanto.co.jp

URL <http://www.tamurakanto.co.jp/>

銚子営業所:千葉県旭市蛇園 5696

TEL 0479-55-6111

FAX 0479-55-5666

東京営業所:東京都千代田区岩本町3-2-9滝清ビル 3 階

TEL・FAX 03-6206-0368

(3)環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者:取締役社長 田村 真光

担当者(事務局):管理部 部長 中村 大輔

連絡先:043-246-2751(代表)

(4)事業内容

管工事の設計・施工・管理、ダクト製品の製作・販売

(5)許認可

特定建設業:国土交通大臣許可(特-1 管工事)第 20360 号

一般建設業:管工事業(般-1 熱絶縁工事)第 20360 号

千葉県水道局指定給水工事業者 指定第 995 号

千葉市水道局指定給水工事業者 指定第 192 号

(6)事業規模

会社創業 昭和 42 年 10 月

会社設立 平成 3 年 1 月

資本金 5,000 万円

売上高 53億円(2022年11月1日~2023年10月31日)

従業員 115人

床面積 12,105 m²(全社合計)

2. エコアクション 2.1 対象範囲

対象範囲: 本社・千葉営業所、銚子営業所、東京営業所

事業活動: 管工事の設計・施工・管理、ダクト製品の製作・販売

(東京営業所は 2023 年5月から環境活動を開始している)

3. 環境経営方針

当社は「豊かさを育む快適環境」をモットーに、施工管理業務及びダクト製造を通じて、環境負荷の低減及び自然環境の保護に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

当社は、環境経営教育を徹底し、環境活動への取組が地域社会に貢献していることを自覚させ、環境に配慮した施工管理を推進します。

当社は事業活動に関連する環境関連法令を遵守し、以下の重点方針に具体的に取り組み、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

重点方針

1. 環境配慮工事の検討及び施工に努めます
2. 省エネ活動に取り組み、二酸化炭素排出量を削減します
3. 工場及び工事現場から発生する廃棄物の分別を徹底し、産業廃棄物排出量を削減します
4. 節水により、水使用量を削減します
5. 購入品の化学物質の管理を徹底し、汚染の予防に努めます

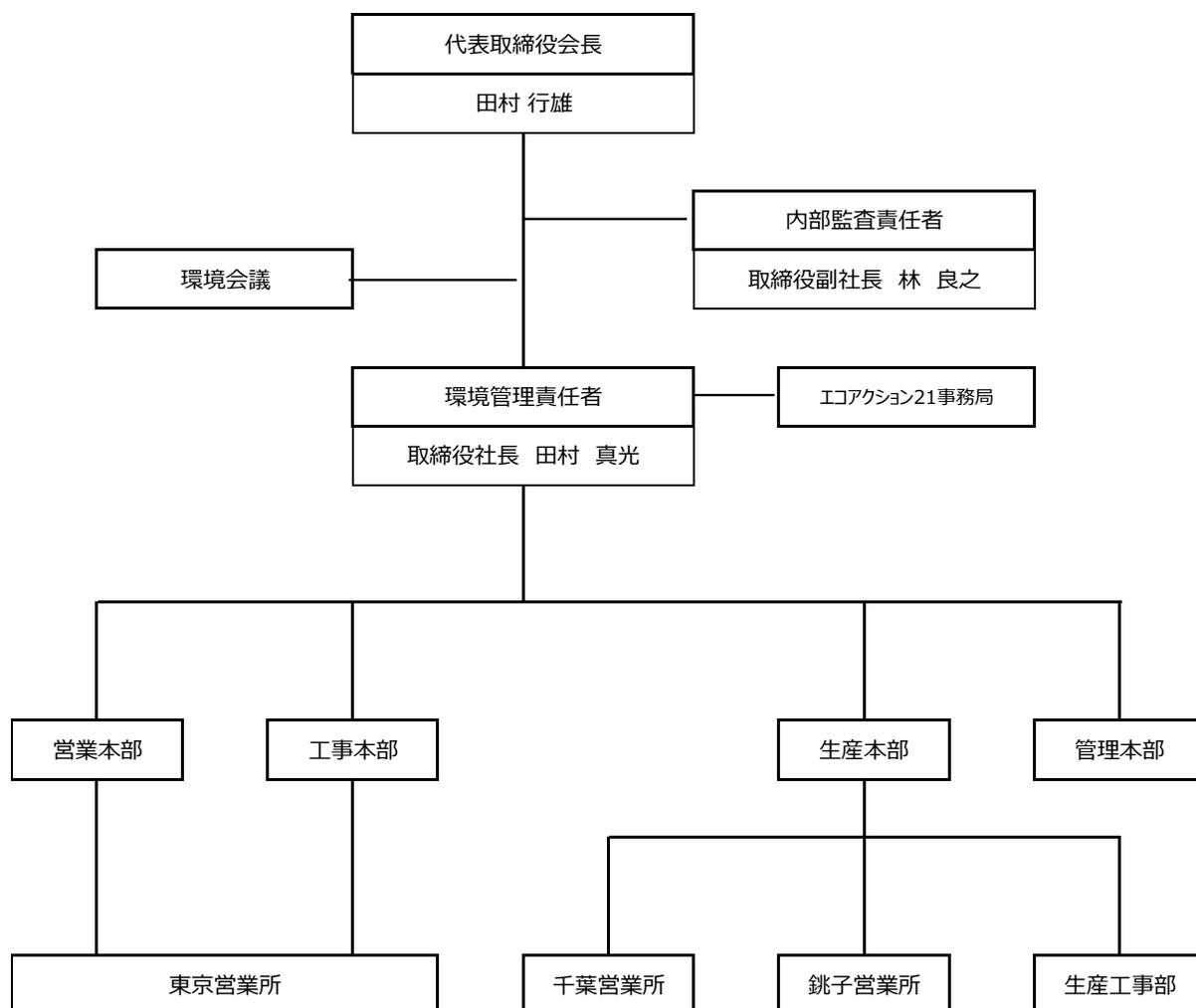
制定日: 2022 年 5 月 2 日

株式会社タムラカントウ

代表取締役 田村 行雄

4. 環境管理体制図

2023年5月1日作成



環境管理体制図における責任及び権限

| | |
|----------|---|
| 代表取締役会長 | 人的資源、インフラストラクチャー、専門的な技能・技術並びに資金を含む経営資源の準備 『環境経営方針』の策定、マネジメントレビューの実施 環境管理責任者、内部監査責任者の任命 |
| 環境管理責任者 | エコアクション21 マネジメントシステムに関する運用・管理 環境関係法令等登録表／順守評価記録の承認 従業員に対する環境教育、緊急事態対応訓練の実施 外部からの情報の窓口 環境経営レポートの作成 |
| EA21 事務局 | 環境管理責任者の補佐 |
| 内部監査責任者 | 内部監査の実施、内部監査結果を社長へ報告 |
| 従業員 | 環境経営方針及び環境経営目標の理解と実行 |

5. 環境経営目標及び活動計画

| No | 目的 | 達成手段 (活動計画) | 基準 (2021年度) | 3カ年計画 |
|----|------------------------|--|--|--|
| | 責任者 | | | 2022年度年間目標 |
| 1 | 環境配慮工 事の施工を 推進する | ①環境配慮工事、環境配 慮製品の検討 ②パンフレット、ホームペ ージの準備 ③環境配慮工事、環境配 慮製品の提案 | — | 【取組目標】 環境配慮工事、環境配慮 製品の提案 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 【取組目標】 環境配慮工事、環境配慮 製品の提案 |
| 2 | 二酸化炭素 排出量の削 減 | ①センサー設置、昼休み 消灯による節電 ②加工機械の効率使用 ③エアコン設定温度の調 整 ④エコドライブの推進 ⑤千葉 SDGsパートナ ー登録による環境活動 の推進 ⑥不良率の削減 | 2021年度実績 213,337 kg-CO2 ※東京電力エナジ ー パートナー0.442 kg-CO2/kWh | 基準年度実績以下に抑制 213,337kg-CO2 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 213,337kg-CO2 (ダクト売上あたりの二酸 化炭素排出量の把握) (東京営業所の電気使用 量把握:2023年5月~) |
| 3 | 水使用量の 削減 | ①センサー設置等による 節水 ②水道管の破損点検 | 2021年度実績 779 m ³ | 3%削減 756 m ³ |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 1%削減 771 m ³ (東京営業所の水使用量 把握:2023年5月~) |
| 4 | 産業廃棄物 排出量の削 減 | ①分別方法の見直し ②分別箱設置、分別教育 の実施 ③リサイクル処理先の調 査 | 2021年度実績 34.56トン | 基準年度実績以下に抑制 34.56トン |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 34.56トン |
| 5 | 化学物質使 用量の管理 | ①PRTR 法該当物質の 管理 ②エコ塗料使用の検討 | 2021年度 1,614kg | 基準年度実績以下に抑制 1,614kg |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 1,614kg |
| 6 | 工事現場で の分別の推 進 | ①工事現場分別方法の 確認 ②施主指示の分別実施 | — | 【取組目標】 工事現場での分別の推進 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | 【取組目標】 工事現場での分別の推進 |

目標設定時点(2022年11月)で売り上げ増加見込みのため、二酸化炭素排出量削減目標、産
業廃棄物排出量削減目標は基準年度以下に設定。

6. 2022年度環境活動実績

| No | 目的 | 達成手段 (活動計画) | 基準 (2021年 度) | 2022年度 目標 (2022年11月～ 2023年10月) | 2022年度 実績及び評価 (活動計画評価を含む) |
|----|------------------------|--|--|---|---|
| | 責任者 | | | | |
| 1 | 環境配慮工 事の施工を 推進する | ①環境配慮工事、 環境配慮製品の検 討 ②パンフレット、ホ ームページの準備 ③環境配慮工事、 環境配慮製品の提 案 | — | 【取組目標】 環境配慮工事、 環境配慮製品の 提案 | 評価○:達成 ・環境配慮製品の提案 が出来た。タイルリブダ クト製品の販売(7現 場)が出来た。 ・ホームページにタイル リブダクト及び保温ダ クトの案内ページを掲 載した。 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | | |
| 2 | 二酸化炭素 排出量を削 減する | ①センサー設置、 昼休み消灯による 節電 ②加工機械の効率 使用 ③エアコン設定温 度の調整 ④エコドライブの 推進 | 213,337 kg-CO2 ※東京電力エ ナジーパート ナー0.442 kg-CO2/ kWh | 基準年度実績以 下に抑制 213,337kg- CO2 | 226,695kg-CO2 評価×:未達成 燃料増となった要因 は、生産が増加し、燃料 及び電気使用量が増加 したことが要因として 考えられる。対策とし て、生産効率の向上や エコドライブを推進は 継続している。 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | | |
| 3 | 水使用量の 削減 | ①センサー設置等 による節水 ②水道管の破損点 検 | 779 m ³ | 1%削減 771 m ³ | 755 m ³ 評価○:達成 センサー設置等によ り、節水できた。 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | | |
| 4 | 産業廃棄物 排出量の削 減 | ①分別方法の見直 し ②分別箱設置、分 別教育の実施 ③リサイクル処理 先の調査 | 34.56 ト ン | 基準年度実績以 下に抑制 34.56 トン | 32.74トン 評価○:達成 収集業者に分別方法を 確認し、分別箱を設置 し、混合廃棄物の分別 が推進出来た。 |
| | 環境管理責 任者;田村 真光 | | | | |
| No | 目的 | 達成手段 | 基準 | 2022年度 | 2022年度 |

| | 責任者 | (活動計画) | (2021年度) | 目標 (2022年11月～ 2023年10月) | 実績及び評価 (活動計画評価を含む) |
|---|-----------------------------|----------------------------|----------|-------------------------------|---|
| 5 | 化学物質使用量の管理 環境管理責任者;田村真光 | ①データ把握 ②エコ塗料使用の検討 | 1,614kg | 基準年度実績以下に抑制 1,614kg | 2,310kg 評価×:未達成 塗装が必要な製品が増加し、PRTR 法該当物質使用量が増えた。 |
| 6 | 工事現場での分別の推進 環境管理責任者;田村真光 | ①工事現場分別方法の確認 ②施主指示の分別実施 | — | 【取組目標】 工事現場での分別の推進 | 評価○:達成 施主指示従い、分別を推進することが出来た |

7. その他の環境活動 (SDGs への取組)

デジタル技術の積極的導入

電子商取引やグループウェアの利用により、ペーパーレス化と情報共有を潤滑化。作業の効率化や生産性向上を追求しています。



働き方改革の取り組み

当社の事業活動に関わる人が健康で安全に働くことが出来るような環境作りを積極的に行い、現場や工場では完全ゼロ災を目指して継続的な改善に努めます。

さらに、日々の残業管理、有給取得の推進、育児休暇取得のサポートなど、現代社会に寄り添った柔軟性のある働き方を実現しています。



高品質・低コストを追求した 新世代ダクト「タイルリブダクト」

タイルリブダクトは、素材の強度アップによって鉄板の厚みを従来の 1.0mm から 0.6mm にまで減らし、軽量化を図ったダクトです。重量は従来工法で製作したダクトの 60%。軽量化によって原材料の使用量を削減することで、コストダウンも実現しています。



特許出願 2000-56100

意匠登録 2000-4236

タイルリブダクトの特徴

1.骨組みによって素材強化

素材にダイヤ格子の形をしたリブ（骨組み）を組み入れることで、強度アップ。

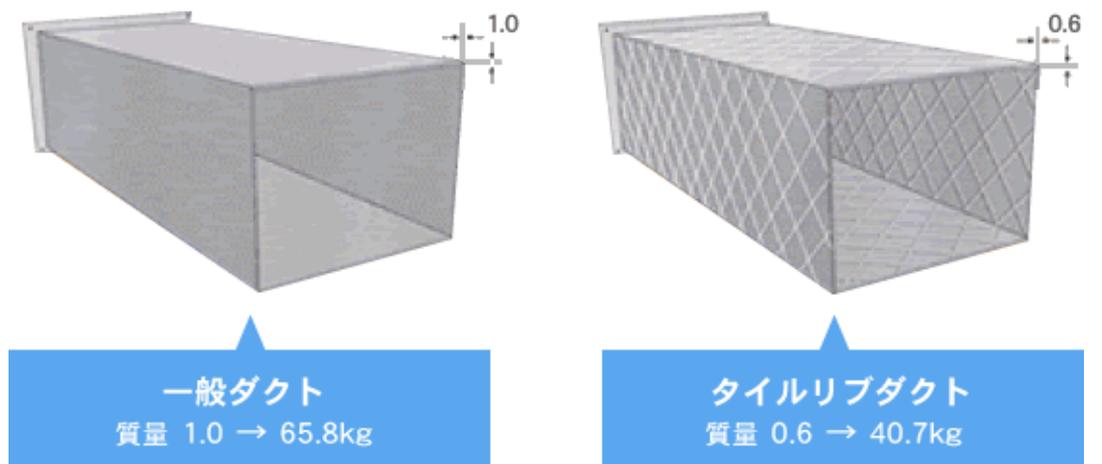
2.生産性向上・経費削減

軽量化によって取り扱う原料を節約できるうえ、現地での施工も低負担化。スムーズに施工を終えられるので、工事にかかる人件費も削減できます。

3.輸送コストを削減

軽量化により、輸送に必要な車両台数を半減。燃料節約により輸送コストをカットできるほか、環境保護に貢献しています。

(例)ダクト寸法 1600×500×1740の場合重量比較



平成 16 年 12 月 1 日現在

【ちばSDGsパートナーとして千葉県へ登録】



8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

2023年11月29日に環境関係法令等の遵守状況を確認した結果、環境関係法令等への違反及び訴訟等はありません。又、違反・提訴等も過去3年間ありません。

(主な環境法令：廃棄物処理法、騒音規制法、振動規制法、消防法)

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

| 報告事項(環境管理責任者) | |
|---|--|
| 環境経営方針 | 変更の必要性なし。 |
| 環境経営目標、環境経営計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮工事環境配慮製品の提案目標、水使用量削減目標、産廃排出量削減目標は達成となった。 ・二酸化炭素排出量削減目標は、ダクト製品販売量増加により電力使用量が増加し未達成となった⇒対策として、千葉 SDGs パートナーへの登録、TEPCO 省エネプログラム 2022 に取り組む ・化学物質使用量削減目標は、塗装が必要な製品が増加し、P RTR 法該当物質使用量が増えた。⇒対策として、エコ塗料の検討を進める。 ・東京営業所の環境負荷として、電気使用量及び水使用量の現状把握(6ヶ月間)が出来た。 ・2023年度(2023年11月～2024年10月)の目標は、工事件数増加の見込みがあり、二酸化炭素排出量も増加することが想定される。よって、ダクト売上に対する二酸化炭素排出量の削減目標を設定する。なお、東京営業所の環境負荷(電気使用量、水使用量)を1年換算して設定する。 |
| 環境関係法令等の遵守状況 | 環境関係法令等登録表/順守評価記録(2023年11月29日)を確認し、問題無かった |
| 環境マネジメントシステム | 内部監査の結果2件の改善提案があり、改善につなげている |
| 外部からの苦情や要望 | 無し |
| 前回の代表者による見直しの指示事項への取組結果 | 目標改定、目標達成手段の追加 |
| 取り組み状況の評価(会長) | |
| 2022年5月から活動を開始し、環境経営目標に計画的に取り組み、環境配慮工事・環境配慮製品の提案等の目標は達成となり、一定の成果が出ている。今後も環境経営方針及び環境改善活動を従業員に周知し、全従業員で環境活動を推進する。 | |
| 指示事項(会長) | |
| 環境経営方針 | 変更なし。 |
| 環境経営目標、環境経営計画 | ・2022年度(2022年11月～2023年10月)基準で環境経営目標の中期目標(2023年度～2025年度)を改定すること。 |
| 環境マネジメントシステム | 内部監査の改善提案への対応を推進すること。 |
| 実施体制 | 変更無し |
| その他 | 変更無し |

10. 次年度の環境目標及び取組計画

| No | 目的 | 達成手段 (活動計画) | 基準 (2022年度) | 3カ年計画(2025年度) |
|----|----------------------|---|---|------------------------------|
| | 責任者 | | | 2023年度年間目標 |
| 1 | 環境配慮工事の施工を推進する | ①環境配慮工事、環境配慮製品の検討 ②パンフレット、ホームページの準備 ③環境配慮工事、環境配慮製品の提案 | — | 【取組目標】 環境配慮工事、環境配慮製品の提案 |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 【取組目標】 環境配慮工事、環境配慮製品の提案 |
| 2 | ダクト売上あたりの二酸化炭素排出量の削減 | ①センサー設置、昼休み消灯による節電 ②加工機械の効率使用 ③エアコン設定温度の調整 ④エコドライブの推進 ⑤千葉SDGsパートナー登録による環境活動の推進 ⑥不良率の削減 | 2.15kg-CO2/万円 (2022年度実績の内訳) 241,625kg-CO2 ※東京電力エナジーパートナー0.456kg-CO2/kWh 112,421.6万円 | 基準年度実績以下に抑制 2.15kg-CO2/万円 |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 2.15kg-CO2/万円 |
| 3 | 水使用量の削減 | ①センサー設置等による節水 ②水道管の破損点検 | 817m ³ | 3%削減 792 m ³ |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 1%削減 809 m ³ |
| 4 | 産業廃棄物排出量の削減 | ①分別方法の見直し ②分別箱設置、分別教育の実施 ③リサイクル処理先の調査 | 32.74トン | 基準年度実績以下に抑制 32.74トン |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 32.74トン |
| 5 | 化学物質使用量の管理 | ①PRTR法該当物質の管理 ②エコ塗料使用の検討 | 2,310kg | 基準年度実績以下に抑制 2,310kg |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 基準年度実績以下に抑制 2,310kg |
| 6 | 工事現場での分別の推進 | ①工事現場分別方法の確認 ②施主指示の分別実施 | — | 【取組目標】 工事現場での分別の推進 |
| | 環境管理責任者;田村真光 | | | 【取組目標】 工事現場での分別の推進 |

目標設定時点(2023年11月)で売り上げ増加見込みのため、ダクト売上あたりの二酸化炭素排出量削減目標、産業廃棄物排出量削減目標、化学物質使用量削減は基準年度以下に設定。